



SSKS 療育ねっとわーく川崎

2019年2月20日発行
No.217 (2800部)
NPO法人
療育ねっとわーく川崎
発行者 江川 文誠
編集者 谷 みどり

こんなとき
どうするの?



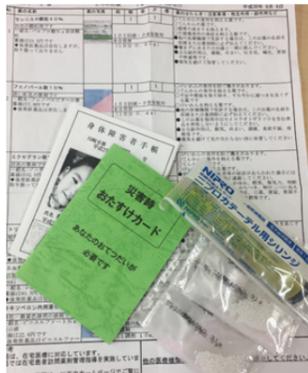
24年前の1月17日、阪神大震災の時、僕は大阪の難波にいました。5時46分、社宅のアパートで寝ていると、縦揺れが2から3分続いてびっくりしました。同僚や地元の人も見に来てくれましたが、震源地から離れていたため、建物は無事でしたが、電気はつかない、水道は止まる。コンビニに行っても商品がなく、遠くまで買い物に行ってもらいました。情報は伝わらず、電話も通じない、寒くて震えていました。つくづく、日よからの備えが必要だと思えます。(和田)

地震は起こるかもしれない、でも多分大丈夫!そんな考えを改め、できる事から防災の準備をコツコツと始めました。今日は取り組んだ中からいくつか紹介します。

◆子どもの薬とお助けカード

子どもは朝、夜と抗てんかん薬を服用しています。日中服用することはしない為、学校にも放デイにも薬を預けていません。でも、災害の時、すぐに迎えに行けない

時、薬がないと困るな。というところで、学校やわくわく、放デイにいつも持たせるバックの中に、いざという時の「5点セット」を入れておきました。①てんかん薬3日分、②シリンジ(水で薬を流し込む用)、③処方箋、④障害者手帳のコピー、⑤お助けカード。お助けカードには、本人の基本情報に加え、緊急連絡先、かかっている医療機関、薬の飲ませ方、食べられるもの、支援して欲しい事などを書いておきました。



ソラーバッテリー充電器を購入。曇りでもつかえるものを選びました。曇りの日に窓際置いてみて、充電されているのを確認しました。それに合わせて、このソーラーバッテリーからUSBで給電できる懐中電灯(ランタン)も購入しました。

◆携帯

ソラーバッテリー充電器を購入。曇りでもつかえるものを選びました。曇りの日に窓際置いてみて、充電されているのを確認しました。それに合わせて、このソーラーバッテリーからUSBで給電できる懐中電灯(ランタン)も購入しました。

◆水と食料

飲料水、1人3リットル×人数×7日間を目安に備蓄しました。使用期限の切れたものは生活水として予備に備蓄しておきます。また、長期の断水の時に備えて20リットル

今月号の目次

- 1 こんなときどうするの.....1
- 2 療育ねっとわーく川崎の防災対策情報.....2
- 3 障害者差別解消法(当事者から).....3
- 4 タテシヨシキの映画中毒.....7
- 5 私の人生活バラ色.....8
- 6 療育ねっとわーく川崎の防災対策情報.....2
- 7 タテシヨシキの映画中毒.....7
- 8 私の人生活バラ色.....8

(本誌5・6・7・8面は会員のみに郵送)

《シンポジウム》 障害者家族のノーマライゼーションを考える

わたしたちは
ふつうに老いることが
できない。



障害者を介護する親による悲しい事件があとを断ちません。親たちは、どのような生活を送り、どのような人生を生活しているのでしょうか。自身の老いを前に、親は何を思い、何を望むのでしょうか。親の生活や思いから家族のノーマライゼーションを考えます。ぜひご参加ください。

【プログラム】

- 講演1:追いつめられた親が引き起こした殺人事件
湯原悦子(日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科教授/日本ケアラー連盟理事)
- 講演2:親たちはどのように生きているのか?
田中智子(佛教大学社会福祉学部社会福祉学科准教授)
- 講演3:老いていく親として思うこと
児玉真美(フリーライター/日本ケアラー連盟代表理事)
- ミニコンサート(サクソス演奏)
石川貴憲(プロサクソス奏者)
※山口県下関市出身。愛知県立芸術大学音楽学部卒業。「長久手市文化の家」にて演奏、企画に携わる契約アーティスト「創造スタッフ」として活動中。
- トークセッション
家族のノーマライゼーションを考える
湯原悦子/田中智子/児玉真美
◎進行 中村健治(北海道社会福祉協議会事務局次長/日本ケアラー連盟理事)

日時▶2019年3月3日(日)
13:00~16:00(開場▶12:30)

会場▶日本福祉大学名古屋キャンパス
北館8階8AB教室

申し込み▶不要

参加費▶無料(ただし資料代を当日いただきます)



一般社団法人
日本ケアラー連盟

E-mail: info@carersjapan.com

FAX: 03-5368-1956

発行所 郵便番号一五七〇〇七三 世田谷区砧六二一六二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価一〇〇円

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond
Tel 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: tani@rond.jp http://rond2981.jimdo.com/
(会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2500円 賛助会費一口 2000円

会員・賛助会員募集



川崎市の防災対策・情報

紀さんの制度情報

今号では川崎市の防災対策・情報を取り上げます。一口に防災対策・情報と言っても、市が公表しているものは膨大にありますので、その中から代表的なものを取り上げます。自分の身は自分で守ることが原則ですが、障害者（特に重度障害者）はそう簡単にいきません。簡単にいかないからこそ、日ごろからどう行動するかを考え、備えておくことが大事だと思います。

災害時要援護者避難支援制度（災害時要援護者のための防災行動ガイドより）

本人が申し込みをして、市の名簿に登録され、災害時に支援組織（町内会・自治会、自主防災組織及び民生委員児童委員）が可能な範囲で避難支援等を行います。

川崎市の防災計画

市では地震・風水害・その他災害に関する計画・対策をそれぞれ作成しています。内容はそれぞれにおいて膨大な量になりますので載せませんが、重度障害者のことを考えたものは無いといつてよいと思います。

川崎市の防災情報（市のホームページ防災情報ポータルサイトか区役所へ）

避難所や応急給水拠点を示す防災マップ・津波ハザードマップ・洪水ハザードマップ・土砂災害ハザードマップ・ゆれやすさマップ・液状化危険分布
各区それぞれのマップがありますので、自分の地域のものは把握しておくことをおすすめします。

災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板等（災害時は通信が混乱します。通話は控え伝言板等を利用しましょう。各社サービスがありますので、確認しておくことをおすすめします。）

- 災害用伝言ダイヤル（171）、災害用伝言板（NTTDocomo）
- 災害用伝言板サービス（au by KDDI）
- 災害用伝言板（SoftBank）、災害用伝言板サービス（Y!mobile）
- 災害用音声お届けサービス（NTTDocomo）
- 災害用音声お届けサービス（au by KDDI）、
- 災害用音声お届けサービス（SoftBank）、災害用伝言板（web171）

二次避難所（福祉避難所）

川崎市は二次避難所がどこか公表していませんが、中原区公表の二次避難所運営マニュアルの中で、「社会福祉施設と協定を締結、または指定することを前提とします。」と書かれています。しかし、既存の施設で新しい人を受け入れるのは、難しいでしょうし、その前に一時避難所に行き、そこで二次避難所への判断をされる訳で、重度障害者が一時避難所に行くところから困難であると想像できます。

冒頭でも書きましたが、自分に合った情報を知っておき、どう対応するかを考え、準備をしておくことが必要だと思います。

障害者差別解消法（当事者家族から）

娘は今、 Rond が運営する生活介護施設「Live Life House Rock」に通っています。一般の保育園に始まり、学校や Rond など、いろいろな場所でも多くの人に助けられてきた日々を振り返りたいと思います。

25年前、娘は仮死状態で生まれてきました。その後遺症で、幼少時より車椅子が必要な全介助の状態です。そんな娘が4歳になったころの話です。

当時下の子を妊娠していた私は、帝王切開で予定より早く出産することに。急を要する事態になりました。一方で、娘は身体的な介助以外に、発作に対する見守りも常に必要な状況です。出産も迫り困っていたころ、療育センターのケアワーカーさんより「障



害児を受け入れてくれる私立保育園で、1枠空きが出た」とお話をいただきました。大変な時期でしたが、すぐに申込書を書いて、娘を入園させました。入園後は、一般の保育園ですが、困ったことがあれば子どもたちが手伝ったり、配慮はありながらもコミュニケーションを取ったりして、自然に受け入れてくれました。娘と友達の間には壁が生まれること

松澤綾子 プロフィール

- ・平成5年3月8日生
- ・平5 8か月より北部療育センターで訓練、通園
- ・平8 なごみ保育園入園
- ・平11 麻生小たんぼ級入学
- ・平17 中原養護学校入学
- ・平23 麻生養護学校卒業
- ・平24 ROCK！通所開始

もなく、反対に、その「壁」は私の中にあるのではないかと気づかれました。それほど保育園の生活は充実しており、20年経った今でも大切な経験になっています。卒園後は、地元の麻生小学校に進学します。進路を選ぶ際、娘は人が好きなので、多くの人に囲まれた一般校のような環境が魅力的な一方、やはり身体的な面では介助も必要でした。そこで、麻生小に併設されていた「たんぼ級」を選びます。こちらは一般校の中にあいながら、先生や介助員の方が多く配置されていて



スクールバスまであり、ふつうの特別支援学級よりもかなり整っている環境です。入学してみても、やはり一般校と特別支援学級の間の環境は娘に合っていたと思います。たんぼ級学級では卒業までお世話になり、当時の先生とは今でも交流があります。ですが、後に麻生養護学校設立で廃止され、現在は選択肢が減ってしまったのが残念です。